

自治医科大学整形外科専門研修プログラム

目次

1. 自治医科大学整形外科専門研修の理念と使命
2. 自治医科大学整形外科専門研修の成果
3. 自治医科大学整形外科専門研修の目標と特徴
4. 自治医科大学整形外科専門研修の方法
 - 4.1 基本方針
 - 4.2 研修計画
 - 4.3 サブスペシャリティ領域習得について
 - 4.4 医学博士取得について
 - 4.5 研修およびプログラムの評価計画
 - 4.6 専攻医の就業環境の整備機能
 - 4.7 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について
 - 4.8 終了条件
5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医
6. 専門研修プログラムを支える体制
7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

1. 自治医科大学整形外科専門研修の理念と使命

自治医科大学は、

- ・人間性豊かな人格の形成に力を注ぎ、真に医の倫理を会得し、ヒューマニズムに徹した医師を育てる。
- ・ますます複雑化する疾病構造に常に対応しうる高度な医学知識と臨床的実力を身に着けた医師を育てる。
- ・医療に恵まれない過疎地域の医療に進んで挺身する気概をもった医師を育てる。

以上のことを教育理念としています。

現在、整形外科専門医は、国民の皆様に質の高い運動器医療を提供することが求められています。このため、整形外科専門医制度は医師として必要な臨床能力および運動器疾患全般に関して、基本的・応用的・実践能力を備えた医師を育成し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献することを理念としています。

また、整形外科専門医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに、進歩する医学の新しい知識と技術の習得に日々邁進し、運動器にかかわる疾患の病態を正しく把握し、高い診療実践能力を有する医師でなければなりません。

さらに、整形外科専門医は、生活習慣や災害、スポーツ活動によって発生する運動器疾患と障害の発生予防と診療に関する能力を備え、社会が求める最新の医療を提供し、国民の運動器の健全な発育と健康維持に貢献する使命があります。整形外科専門医は、運動器疾患全般に関して、早期診断、保存的および手術的治療ならびにリハビリテーション治療などを実行できる能力を備え、運動器疾患に関する良質かつ安全で心のこもった医療を提供する使命があります。

2. 自治医科大学整形外科専門研修の成果

自治医科大学整形外科専門研修プログラムを修了した専攻医は、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を備え、さらに進歩する医学の新しい知識と技能を習得できるような幅広い基本的な臨床能力（知識・技能・態度）が身についた整形外科専門医となることができます。また、同時に専攻医は研修期間中に以下のコアコンピテンシーも習得できます。

- 1) 患者への接し方に配慮し、患者や医療関係者とのコミュニケーション能力を磨くこと。
- 2) 自立して、誠実に、自律的に医師としての責務を果たし、周囲から信頼されること（プロフェッショナリズム）
- 3) 診療記録の的確な記載ができること
- 4) 医の倫理、医療安全等に配慮し、患者中心の医療を実践できること。
- 5) 臨床から学ぶことを通して基礎医学・臨床医学の知識や技術を習得すること。
- 6) チーム医療の一員として行動すること。
- 7) 後輩医師に教育・指導を行うこと。

3. 自治医科大学整形外科専門研修の目標と特徴

本研修プログラムでは、基幹施設および連携施設全体において脊椎外科、関節外科、スポーツ医学、手外科、外傷、腫瘍、小児などの専門性の高い診療を早くから経験することで、整形外科専門医取得後のサブスペシャリティ領域の研修へと継続していくことができます。また基幹施設である自治医科大学附属病院は、サブスペシャリティに対する専門性の高い研修に加えて、大学院大学である側面を活かし、研修途中からの社会人大学院進学や研修後の大学院への進学が可能です。

研修プログラム終了後の進路としては、大学院へ進学するコースと直接サブスペシャリティ領域の研修に進むコースがあります。大学院へ進学する場合、研修修了の翌年度より整形外科に関連する大学院講座に入学し、主に基礎研究を行います。大学院卒業後はサブスペシャリティ領域の研修に進み、各分野の臨床、研究に従事しますが、国内外への留学でさらに研究の幅を深める選択肢もあります。一方、研修プログラム終了後にサブスペシャリティ領域の研修に直接進む場合には、進みたい領域の専門診療班に所属し、自治医科大学整形外科並びに連携施設において専門領域の研修を行います。希望者には国内外の留学に対応致します。いずれのコースにおいても研修修了翌年度から行うためには、専攻研修4年目の6月の時点で、後述する修了認定基準を満たす見込みが得られていることが必要です。

自治医科大学整形外科は1972年に開講し、2012年に開講40周年を迎えた整形外科教室です。1県1医大構想のさきがけの大学として開設された経緯があり、卒業生には出身県の医療を担うという義務が存在します。自治医科大学の研修には、卒業生に課せられる義務は関係なく、通常の大学病院と同様の研修システムになります。初代御巫教授、2代大井教授、3代星野教授と続き、2015年より竹下教授が主任教授になられております。脊椎班、肩膝スポーツ班、小児班、股関節班、手の外科班、外傷班に分かれております。骨軟部腫瘍に関しては、自治医科大学さいたま医療センターと連携をして対処しております。脊椎班ではナビゲーションシステムを駆使した高度な手術から、最小侵襲手術として脊椎内視鏡手術まで幅広く行っております。また、成人脊柱変形に対し腰椎前方から小皮切で腰椎前方固定術を行い、胸腰椎後方固定術を併用して矯正固定術も行っております。肩膝スポーツ班では、県内の野球肘検診を行い、若年者からの肘の故障を防止する取り組みを行っております。また、肩・膝・股関節の人工関節、関節鏡手術にも取り組んでおります。小児班では、側弯症、内反足、先天性股関節脱臼といった疾患にも対応しております。外傷班は、骨盤骨折を中心に、多発外傷に対応しております。リハビリテーション科との連携も密に行っております。麻酔科と慢性疼痛について定期的に合同カンファレンスを開き、アレルギー・リウマチ科とも合同カンファレンスを開いております。また、放射線科・病理と骨軟部病理カンファレンスを2ヵ月おきに開いております。研究面では、基礎研究として、動物モデルを用い脊髄損傷や末梢神経損傷、筋損傷の分子生物学的研究を行い、数々の成果を上げてきています。臨床研究では、各専門領域での手術成績の向上の検討や、他施設研究、ロコモティブシンドローム、野球肘検診など、スポーツに対する取り組みも行っております。若手医師の教育に

も力を注いでおり、専門グループや派遣病院での研鑽や、国内外への留学など、学位取得の研究も含め数々の配慮がなされています。高齢化社会に伴い、個々人の運動器不全のリスクを全人的に捉える視点を提唱し社会への提言を行ってきており、日本運動器科学会の事務局を当教室が担当しています。

4. 自治医科大学整形外科専門研修の方法

4.1 基本方針

整形外科専門研修プログラム整備基準附属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」(日本整形外科学会ホームページ参照)に沿って、自治医科大学附属病院(基幹病院)及び連携施設において研修を行います。また、当プログラムでは、自治医科大学栃木県出身の卒業生で整形外科を希望している専攻医のプログラムも用意しております。栃木県保健福祉部医療政策課と相談し、整形外科専門研修プログラムを円滑に進められるよう当科では配慮しております。

研修実績の記録と評価には、日本整形外科学会整形外科専門医管理システムを用います。専攻医は、各研修領域終了時及び研修施設移動時に日本整形外科学会が作成したカリキュラム成績表の自己評価欄に行動目標毎の自己評価を行います。また指導医評価表で指導体制、研修環境に対する評価を行います。指導医は、専攻医が行動目標の自己評価を終えた後にカリキュラム成績表の指導医評価欄に専攻医の行動目標の到達度を評価します。また、指導医は抄読会や勉強会、カンファレンスの際に専攻医に対して教育的な建設的フィードバックを行います。

10月の時点で、専攻医の到達具合、指導医の途中評価を行い、カリキュラムの修正、専攻医への介入が必要かを判断します。

研修実績と評価をもとに、専門研修最終年度の3月に研修プログラム管理委員会において、専門研修終了判定を行います。判定基準は終了条件に定める通りです。

このプログラムおよび専門研修プログラム管理委員会はサイトビジットを含む第3者の評価・指導を受けます。またその際に研修プログラム統括責任者、研修連携施設指導管理責任者、指導医並びに専攻医は真摯に対応致します。

4.2 研修計画

整形外科は運動器を対象とする疾患を診ます。骨、軟骨、筋肉、靭帯、神経からなる運動器を形成する疾患が対象となります。新生児から始まり、小児、学童、成人、高齢者まですべての年齢層が対象となります。多種多様な疾患に対応するため、それぞれの専門家のいる複数の病院で研修を行います。日本整形外科学会が定めた脊椎、上肢・手、下肢、外傷、リウマチ、リハビリテーション、スポーツ、地域医療、小児、腫瘍の10の研修分野を基幹病院、連携病院をローテーションすることにより、4年間で45単位取得し、整形外科医としての素養を身につけます。

① 専門知識の習得計画

専攻医は整形外科研修カリキュラムに沿って研修し、整形外科専門医として、あらゆる運動器に関する科学的知識と高い社会的倫理観を獲得する必要があります。さらに、進歩する医学の新しい知識を習得できるように、幅広く基本的、専門的知識を習得する。専門知識習得の年次毎の到達目標を決めます。

② 専門技能の習得計画

本研修プログラムでは、専門技能を整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」(日本整形外科学会ホームページ参照)に沿って研修し技能の習得状況を6カ月毎に評価します(自己評価および指導医評価)。専門研修プログラム管理委員会による専攻医面接を年1回行い、評価したデータをまとめた評価表を参照し、技能習得に関する目標設定・取得単位調整・指導を行います。

専攻医の過半数が獲得できていない技能があれば、これを獲得するためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が開催します。

③ 経験目標(経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等)

経験すべき疾患・病態、診察・検査等、手術処置等は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料3「整形外科専門研修カリキュラム」(日本整形外科学会ホームページ参照)に明示された症例数以上を自治医科大学附属病院及び連携施設で偏りがないように経験することができます。

④ リサーチマインドの養成計画

すべての専攻医が研究した成果を発表する同門会を年1回開催します。研究指導は核施設の指導医が行います。

⑤ 学術活動に関する具体的目標とその指導体制(専攻医1人あたりの学会発表、論文等)

専攻医が学会発表を4年間で1回以上、また論文執筆を1本以上行えるように指導します。専門研修プログラム管理委員会は全専攻医の学会発表数及び論文執筆数を年1回集計し、面接時に指導・助言します。

⑥ コアコンピテンシーの研修計画(医療倫理、医療安全、院内感染対策等)

整形外科専門医としての臨床能力(コンピテンシー)には、専門的知識・技能だけでなく、医師としての基本的診療能力(コアコンピテンシー)が重要であることから、どの領域から研修を開始しても基本的診療能力(コアコンピテンシー)を身につけさせることを重視しながら指導し、さらに専攻医評価表を用いてフィードバ

ックをすることによって基本的診療能力（コアコンピテンシー）を早期に獲得させます。

自治医科大学附属病院および各研修施設の医療倫理・医療安全講習会に参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

⑦ 地域医療に関する研修計画

本プログラムの連携施設は栃木県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院、医療圏として隣となる茨城県西部の中核病院、自治医科大学の卒業生が所属する岩手県の中核病院を含みます。他県にある連携施設とは長年にわたって人事交流があります。本プログラムとは別の地域における整形外科診療や病病連携、病診連携を経験することを目的に、他県での研修を行います。すべての専攻医は栃木県指定医師不足地域中小病院および医師不足地域中核病院に3ヵ月以上勤務します。地域医療研修病院における外来診療および二次救急医療に従事し、主として一般整形外科外傷の診断、治療、手術に関する研修を行います。また地域医療研修病院における周囲医療機関との病診連携を経験・習得します。

4.3 サブスペシャリティ領域習得について

整形外科専門医のサブスペシャリティ領域として、日本脊椎脊髄病学会指導医、日本リウマチ学会専門医、日本手の外科学会専門医、日本リハビリテーション医学会専門医があります。自治医科大学附属病院は日本手の外科学会の研修施設として認定されており、手の外科を専門にするための研修を行うことができます。また、脊椎脊髄病学会指導医としての技能が十分到達できるように日本脊椎脊髄病学会評議員である医師より直接指導を受けられます。さらに、自治医科大学附属病院は日本リハビリテーション医学会の研修施設に認定されており、希望者には専門医取得のバックアップを行っております。毎年度末に、サブスペシャリティの希望を伺い、専攻医のサブスペシャリティ領域の専門研修や学術活動を支援していきます。また、専門医取得後に、希望があれば国内外に留学することをバックアップしていきます。

4.4 医学博士取得について

自治医科大学整形外科では学位取得について、積極的にバックアップしています。自治医科大学では、医学博士を取得するにあたり、一般入学の大学院、社会人大学院、論文博士で取得する方法があります。年度毎に、学位の希望のアンケートを取ります。専門研修中に学位取得希望の場合は、社会人大学院として入学するか、研究日、休日を使って実験を行い、論文博士を取得する方法があります。どちらの場合でも、教室全体でサポートを行っていきます。

4.5 研修およびプログラムの評価計画

①専攻医の評価時期と方法

専攻医および指導医は研修記録による研修実績評価を6カ月に1回行い（10月同門会及び3月末）、専門研修プログラム管理委員会に提出します。

専攻医は研修プログラムの取得単位、学会発表・論文執筆数、教育研修講演受講状況を年度末に専門研修プログラム管理委員会に提出し、専門研修プログラム管理委員会で評価します。

上記の総評を専門研修プログラム管理委員会で年1回年度末に評価します。

②専門研修プログラム管理委員会の運営計画

専門研修プログラム管理委員会は整形外科専門研修プログラム統括責任者と副統括責任者、すべての研修連携施設の指導管理責任者で構成されます。年2回の定期委員会（10月と3月）を開催します。3月に専攻医4年次の終了判定委員会を開催します。必要時に臨時委員会を開催します。

③プログラムとしてのFD(Faculty Development)の計画

指導医は整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料12「整形外科指導医マニュアル」（日本整形外科学会ホームページ参照）に従って専攻医を指導します。

指導医の指導技術向上のためのセミナーを専門研修プログラム管理委員会が企画・開催します。厚生労働省および日本整形外科学会主催の指導医講習会へ参加し、その参加状況を年1回専門研修プログラム管理委員会に報告します。

④専門研修プログラムの改善方法

専門研修プログラム管理委員会で年1回検討し、必要に応じてプログラム改定を行います。

4.6 専攻医の就業環境の整備機能

専門研修プログラム管理委員会は、専攻医に対するアンケートと面接で各施設の就業環境を調査します。就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、専門研修指導責任者に文書で通達・指導を行います。

4.7 整形外科研修の休止、中断、プログラムの移動、プログラム外研修の条件について

疾病、妊娠、出産、育児、その他やむを得ない理由がある場合の休止期間は合計6カ月以内とします。限度を超えた場合は、原則として不足期間分の単位を追加履修することとなります。疾病、妊娠、出産の場合は診断書、またはそれを証明するものが必要となります。留学、診療実績のない大学院の期間は研修期間として扱えません。また、研修の休止期間が6カ月を超えた場合には、専門医取得のための専門医試験受験が1年間遅れることがあります。

す。自治医科大学の卒業生で、義務年限で連携病院外での研修は研修期間の休止として扱われます。不足分は、追加履修が必要となります。

また、卒業後に義務年限を有する自治医科大学、防衛医科大学、産業医科大学の卒業生、地域枠卒業生と出産、育児、留学などで長期にプログラムを中断しなければならない相当の合理的な理由がある者のうちカリキュラム制での研修を希望する者はプログラム研修からカリキュラム研修へ変更することが可能です。

専門研修プログラムの移動に際しては、移動前・後のプログラム統括責任者及び整形外科領域の研修委員会の同意が必要です。

4.8 修了要件

- ①日本整形外科学会が定めた 10 領域 45 単位を全て満たしていること
- ②行動目標のすべての必修項目について目標を達成していること
- ③臨床医として十分な適性が備わっていること
- ④研修期間中に日本整形外科学会が認定する教育研修会を受講し、30 単位（必修の腫瘍単位を含む）を取得していること。
- ⑤研修期間中に 1 回以上の学会発表、筆頭著者として 1 編以上の論文があること。

以上の 5 基準を満たしているかを専攻研修 4 年目の 3 月に専門研修プログラム管理委員会において、修了判定を行います。

5. 研修スケジュール、研修ローテーション、専門研修施設、指導医

自治医科大学附属病院では整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料 3「整形外科専門研修カリキュラム」（日本整形外科学会ホームページ参照）にあるすべての分野を研修することができます。栃木県の中核病院として、地域医療の拠点となり、最新の設備と豊富な症例を経験しながら、症例検討・カンファレンス・抄読会などにより専門的な知識・技能を指導していきます。

自治医科大学整形外科週間予定（共通）

	月	火	水	木	金
朝			抄読会		
午前			教授回診		
午後					
夕方	病棟カンファ リハビリ合同 カンファ		術前カンファ 大学院リサーチ リウマチ科合同カ ンファ(年 2 回)	腫瘍勉強会（月 1 回） 肩・スポーツ勉強会 （月 1 回） 骨折勉強会（月 1 回）	整形外科クルズス （月 2 回）

診療班		月	火	水	木	金
脊椎	午前	外来	手術	手術	脊髄造影検査	外来
	午後	外来	手術	病棟	外来 脊椎カンファ 脊椎抄読会	病棟
肩肘膝 スポーツ	午前	手術	病棟	病棟	病棟	病棟
	午後	手術	外来	外来	リハビリ外来 肩スポーツ勉強会	病棟
股関節	午前	手術	病棟	病棟	外来	病棟
	午後	手術	病棟	外来	病棟	病棟
手	午前	病棟	病棟	外来	手術	病棟
	午後	病棟	病棟	病棟	病棟	外来
腫瘍	午前	病棟	病棟	病棟	病棟	手術
	午後	病棟	病棟	病棟	外来・腫瘍勉強会	病棟
外傷	午前	病棟	病棟	手術	病棟	外来
	午後	病棟	病棟	手術	病棟・骨折勉強会	病棟

本プログラムの連携施設は13施設(自治医科大学さいたま医療センター、新上三川病院、石橋総合病院、上都賀総合病院、下都賀総合病院、芳賀赤十字病院、新小山市市民病院、JCHO うつのみや病院、友愛記念病院、結城病院、とちぎリハビリテーションセンター、独立行政法人国立病院機構 盛岡病院、横浜労災病院、一宮西病院)です。とちぎリハビリテーションセンターはリハビリテーション病院になります。自治医科大学は外傷センターを研修することができ、外傷を深く学びたい希望がある場合に研修先として選択可能です。

当プログラムでは、自治医科大学栃木県出身の卒業生や地域卒卒業生で整形外科を希望している専攻医のプログラムも用意しております。栃木県保健福祉部医療政策課と相談し、整形外科専門研修プログラムを円滑に進められるよう当科では配慮しております。

整形外科診療の現場における研修方法の要点は、整形外科専門研修プログラム整備基準付属解説資料13「整形外科専攻医研修マニュアル」(日本整形外科学会ホームページ参照)を参照してください。

医療機関	指導可能な指導領域										専攻医受け入れ可能数
	a	b	c	d	e	f	g	h	i	j	
自治医科大学附属病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	5
さいたま医療センター			○					○		○	2
新上三川病院	○	○	○	○	○	○	○	○		○	3
石橋総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3
上都賀総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○		3
下都賀総合病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	3
芳賀赤十字病院	○	○	○	○		○		○			3
新小山市民病院	○		○		○		○	○	○		3
JCHO うつのみや病院			○	○				○			1
友愛記念病院		○		○		○	○	○		○	2
結城病院	○	○	○	○		○		○			3
一宮西病院	○	○	○	○	○	○	○		○	○	1
横浜労災病院	○	○	○	○	○	○	○		○	○	1
とちぎりハビリテーションセンター	○	○	○	○	○	○		○	○		1
国立病院機構盛岡医療センター	○	○	○	○		○		○			3

専攻医ローテーション表

	1年目	2年目	3年目	4年目
①	大学	下都賀	小山	結城
②	大学	上三川	さいたま	友愛
③	大学	小山	うつのみや	石橋
④	大学	芳賀	下都賀	上三川
⑤	盛岡	大学	一宮西	栃リハ
⑥ 自治栃木	上都賀	上都賀	大学	芳賀

⑥は自治医大卒業生で栃木出身者の回り方です。

病院別専攻医ローテーション表

医療機関	1年目	2年目	3年目	4年目
自治医科大学附属病院	専攻医 1-4	専攻医 5	専攻医 6	
さいたま医療センター			専攻医 2	
新上三川病院		専攻医 2		専攻医 4
石橋総合病院				専攻医 3
上都賀総合病院	専攻医 6	専攻医 6		

下都賀総合病院		専攻医 1	専攻医 4	
芳賀赤十字病院		専攻医 4		専攻医 6
新小山市民病院		専攻医 3	専攻医 1	
JCHO うつのみや病院			専攻医 3	
友愛記念病院				専攻医 2
結城病院				専攻医 1
一宮西病院			専攻医 5	
栃木リハビリテーションセンター				専攻医 5
国立病院機構盛岡医療センター	専攻医 5			

専攻医別取得単位

	1年目	2年目	3年目	4年目	取得単位合計 45 単位の内訳
専攻医 1	e3,g3,i3,j3	a6,f6	c6,d6	b6,h3	a6,b6,c6,d6,e3,f6,g3,h3,i3,j3
専攻医 2	e3,g3,i3,j3	a6,d6	c6,h6	b6,f3	a6,b6,c6,d6,e3,f3,g3,h6,i3,j3
専攻医 3	e3,g3,i3,j3	a6,f6	c6,d6	b6,h3	a6,b6,c6,d6,e3,f6,g3,h3,i3,j3
専攻医 4	e3,g3,i3,j3	b6,d6	a6,f6	c6,h3	a6,b6,c6,d6,e3,f6,g3,h3,i3,j3
専攻医 5	c6,h6	e3,g3,i3,j3	a6,d6	b6,f3	a6,b6,c6,d6,e3,f3,g3,h6,i3,j3
専攻医 6	b6,h6	a6,d6	e3,g3,i3,j3	c6,f3	a6,b6,c6,d6,e3,f3,g3,h6,i3,j3

専門研修施設群 専門研修指導医 一覧

施設名	指導医名	指導分野 1	指導分野 2	指導分野 3
自治医科大学附属病院	竹下 克志	a	e	j
自治医科大学附属病院	渡邊 英明	c	d	i
自治医科大学附属病院	木村 敦	f	g	j
自治医科大学附属病院	松村 福広	d	f	h
自治医科大学附属病院	井上 泰一	a	e	g
自治医科大学附属病院	飯島 裕生	e	i	j
さいたま医療センター	秋山 達	c	h	j
新上三川病院	大上 仁志	a	e	f
新上三川病院	関矢 仁	c	f	j
新上三川病院	高德 賢三	b	d	h
石橋総合病院	安食 孝士	e	f	i
石橋総合病院	萩原 秀	b	d	h

石橋総合病院	堀井倫子	a	c	g
石橋総合病院	溝部弘敬	b	d	j
下都賀総合病院	中間 季雄	a	e	f
下都賀総合病院	矢野雄一郎	g	i	j
下都賀総合病院	笹沼 秀幸	c	g	h
下都賀総合病院	萩原 浩好	b	d	i
芳賀赤十字病院	杉本 直哉	a	f	h
芳賀赤十字病院	近藤 清明	b	c	d
新小山市民病院	東 高弘	a	c	h
新小山市民病院	田中 浩史	b	d	f
JCHO うつのみや病院	坂口 亮人	c	d	h
友愛記念病院	茂呂 貞美	b	d	f
友愛記念病院	遠藤 照顕	g	h	j
結城病院	大木 武	a	f	h
結城病院	中村 健太郎	b	c	d
一宮西病院	西 源三郎	b	d	e
一宮西病院	川上 紀明	a	f	i
一宮西病院	中西 昭登	b	c	j
一宮西病院	松原 隆将	c	d	g
一宮西病院	竹本 暁	b	c	d
横浜労災病院	三上容司	b	d	f
横浜労災病院	三好光太	a	e	i
横浜労災病院	山本真一	b	d	j
横浜労災病院	小泉泰彦	c	e	g
横浜労災病院	竹下祐次郎	a	h	i
横浜労災病院	小林 誠	c	d	f
栃木リハビリテーションセンター	星野 雄一	d	f	h
栃木リハビリテーションセンター	石塚 謙	b	c	i
栃木リハビリテーションセンター	石川義久	a	e	f
国立病院機構盛岡医療センター	大山 素彦	a	c	h

国立病院機構盛岡医療センター	本田 剛久	b	d	f
上都賀総合病院	高井 盛光	b	d	h
上都賀総合病院	阿久津みわ	c	e	g
上都賀総合病院	大江真人	a	f	i

a:脊椎	6 単位
b:上肢・手	6 単位
c:下肢	6 単位
d:外傷	6 単位
e:リウマチ	3 単位
f:リハビリテーション	3 単位
g:スポーツ	3 単位
h:地域医療	3 単位
i:小児	2 単位
j:腫瘍	2 単位
k:流動単位	5 単位
計	45 単位

6. 専門研修プログラムを支える体制

① 専門研修プログラムの管理運営体制

基幹施設である自治医科大学附属病院においては、指導管理責任者（プログラム統括責任者を兼務）および指導医の協力により、また専門研修連携施設においては指導管理責任者および指導医の協力により専攻医の評価体制を整備します。専門研修プログラムの管理には添付した日本整形外科学会が作成した指導医評価表や専攻医評価表などを用いた双方向の評価システムにより、互いにフィードバックすることから研修プログラムの改善を行います。

上記目的達成のために専門研修基幹施設に専門研修プログラムと専攻医を統括的に管理する整形外科専門研修プログラム管理委員会を置き、年に2度開催します。

② 労働環境、労働安全、勤務条件

労働環境、労働安全、勤務条件等は各専門研修基幹施設や専門研修連携施設の病院規定によります。

- 1) 研修施設の責任者は専攻医のために適切な労働環境の整備に努めます。
- 2) 研修施設の責任者は専攻医の心身の健康維持に配慮します。
- 3) 過剰な時間外勤務を命じないようにします。

4) 施設の給与体系を明示し、4年間の研修で専攻期間に大きな差が出ないように配慮します。

専攻医の勤務時間、休日、当直、給与などの勤務条件については、労働基準法を遵守し、各施設の労使協定に従います。さらに、専攻医の心身の健康維持への配慮、当直業務と夜間診療業務の木別とそれぞれに対応した適切な対価を支払うこと、バックアップ体制、適切な休養などについて、勤務開始の時点で説明を行います。

総括的評価を行う際、専攻医および指導医は専攻医指導施設に対する評価も行い、その内容は自治医科大学附属病院整形外科専門研修管理委員会に報告されますが、そこには労働時間、当直回数、給与など、労働条件についての内容が含まれます。

7. 募集人数と応募方法、病院見学の申し込みについて

【専攻医受入数】各年次 6名 合計 24名

各施設の専攻医最大受け入れ可能数は指導医数及び、手術件数、新患者数で定められている基準より下記の表の通りになり、これまで当院の連携病院の専攻医受入数も勘案すると、当プログラムでの専攻医受入数は各年次 6名となり、合計 24名としました。

	新患者数	手術数	指導医数	専攻医最大 受入可能数
自治医科大学附属病院	881	689	6	5
さいたま医療センター	445	331	1	2
新上三川病院	6665	1623	3	3
石橋総合病院	2657	834	4	3
下都賀総合病院	2811	1296	4	3
芳賀赤十字病院	1878	415	2	3
新小山市民病院	1163	603	2	3
JCHO うつのみや病院	546	244	1	1
友愛記念病院	888	284	2	2
結城病院	6232	412	2	3
横浜労災病院	2601	1766	6	1
一宮西病院	3872	1963	5	1
栃木リハビリテーションセンター	240	4	3	1
国立病院機構盛岡医療センター	1541	359	2	3
上都賀総合病院	1972	580	3	3

【応募方法】

応募に必要な以下の書類を郵送またはメールで書きに送ってください。選考は面接で行います。必要書類の一部は下記のページよりダウンロードしてください。

自治医科大学整形外科専門研修ページ(URL: <http://www.jichi.ac.jp/usr/orth/>)

必要書類：①申請書（ダウンロード）
②履歴書（ダウンロード）
③医師免許証（コピー）
④医師臨床研修修了登録証（コピー）

【募集期間】 8月1日～10月31日

【問い合わせ先】

〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1

自治医科大学整形外科

担当： 西村貴裕 （研修プログラム統括責任者）

TEL:0285-58-7374 FAX:0285-44-1301

e-mail:hi-kazu@jichi.ac.jp